

ヒューマノイドのあいしかた。

～拾ったヒューマノイドに懷かれすぎて

好き好き連呼のあまろえっち！？～

1 トラック1

2

3 ヴァン えへへ……ワルター。ふたりきり……だね。

4 最近はふたりきりってあんまりなかったから

5 新鮮な感じる。

6 こんな状況じゃなかったら、

7 もつとよかったのに……なんて。

8

9 ワルター 確かに最近は大人数での任務が多かったですね。

10 あなたが指示を聞いてくれるようになりましたから。

11 もしかしたら、あなたの保護観察が外れる日も

12 近いかもしれません。

13

14 ヴァン え！ 僕、ワルターと一緒にいらなくなるの？

15 それはヤダ！ ワルターと一緒にいたくて頑張ってるのに。

16 ……じゃあ、もう頑張らない。

17

18 ワルター ……ヴァン。

19 どうか今は……

20 あまり、暴れないでくれると嬉しいのですが。

21 あなたも、エネルギー残量は心もとないでしょう。

22

23 ヴァン う、ごめん……ごめんなさい……。

24

25 ワルター （ふたりともイザナミ式システムが起動して、

26 既にフェロモンが漏れ始めている……。

27 まずい、ここにはヒューマノイドしかないのに)

28

29 ヴァン ワルター……。

30 苦しい？

31 ずっと難しい顔してる。

32

33 ワルター ああ、だいじょう……

34 いえ、あなたに嘘をついても仕方ありませんね。

35 苦しさは平気です。

36 イザナミ式システムが原因だとわかりますから。

37

38 ワルター ただ、ヴァンも苦しんでいる、という状況を

39 どう解決しようかと悩んでいたんです。

40

41 ヴァン そんな……！ 僕は平気！

42 ちよっと、フラフラはしてきたけど……えへ。

43

44 ワルター 不調は隠さないように、と。

45 教えたはずですよ、ヴァン。

46
47 ワルター ……先程よりも、頬が紅潮していますね。

48
49 ヴァン ん……へへ。ごめんなさい……。

50
51 ワルター (……とはいえ、調査に来た孤島に取り残されて6時間。

52 我々の安全確認がとれているから、
53 救助が来るのは夜明け後だ。

54 ざっと計算して、5時間はアイドルタイムが存在する)

55
56 ワルター (エネルギーは持ちそうにない。

57 変電所はあったが、設備は使えなくなっていた。

58 私はいいとして、ヴァンの機能停止は避けたいが……)

59
60 ヴァン ね、ねえ……ワルター。

61 僕にひとつ、案があるんだけど……。

62
63 ワルター 难道不是吗？

64 ……ああ、ヴァンは野営に慣れているのでしたね。

65
66 ヴァン うん……。そうだね。

あは、僕とフルターにしかできないこと……かも。

67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88

89 トリック2

90

91 ヴァン うあ……っ！ ん、ん……っ。

92 わる、たあ……っ！

93 僕、もやるつてば……っ、んんっ、ん……っ。

94

95 フルター いえ、ん……っ。

96 エネルギーに余裕があるのは私のほうですから。

97 はむ、んう……、ちゅ……っ。

98

99 ヴァン そ、うだけど……っ。はう、あ……っ！

100 ねえ、そこやだ……っ！

101 びりびりしちゃう、から……あっ。

102

103 ヴァン ん、んんっ、お、あ……っ。

104 なんで、そんな僕のいいところ、知ってるの……っ？

105 なんか、慣れてる、し……。

106

107 フルター 慣れているわけではありません。

108 慣れているならもっと、

109 あなたを気持ちよくさせられているはずですよ。

110 これは、ただ知識をなぞっているだけです。

111

112 ヴァン

うそ、だあ……っ。

113

お、おお……っ、ふぎゅ、……っ♡

114

じゃあなんで、こんな気持ちいいの……っ。

115

116 ワルター

ふふ、ヴァンがわかりやすく

117

反応してくれるからでしょうか。

118

こういう触れ方がいいのか、どこに触れたらいいのか……。

119

120 ヴァン

あっ、そこぎゅうつてしたら……っ。

121

んう、あ、あゝ……っ♡

122

どお、しよ、きもちいい……。

123

124 ヴァン

うつゝ♡ だめだめっ！

125

僕が気持ちよくなっても、しょうが、ないでしょ……っ！

126

早く、ワルターの入れてびゅゝって

127

してもらわないとだめなんだから……。

128

129 ヴァン

そうじゃなきゃ、エネルギー補給にならないもん。

130

ワルターが僕を抱いてくれるのは、

131

エネルギーのためなんだし。

132

133 ワルター
 ええ、ですが……。

134
135 どうしても、ただ挿入して射精する、ということを
 ヴァンにはしたくないと思っただんです。

136
137 ワルター
 エネルギー補給のためだと理解はしています。

138 だから……ふふ、これは私のワガママですね。

139 大丈夫です、エネルギーにまだ余裕がありますから。

140
141 ヴァン
 くくくっ！ な、なにそれ……っ！

142 そんなんだから、僕みたいなやつに
143 付け入れちゃうんだよ。

144 う、あ……っ♡

145
146 ヴァン
 そんなんだから……っ！

147 僕、ワルターのこと、好きになっちゃうんだよ……っ。

148
149 ワルター
 ……ヴァンは、私が好きなのですか？

150
151 ヴァン
 そう、だよ……。

152 僕は……ワルターのこと好きになるのも、ダメ……？
153 それなら、僕……。

154

155 フルター ダメなことではありません。

156 ですが、その気持ちに伝えることができるか、

157 わからないんです。

158

159 ヴァン ……あはは、変なの。

160 フルターにもわかんないことってあるんだ。ふふ……ふふ。

161

162 フルター 笑いごとでは……。

163 それに、私はそう想ってもらえるような……んっ!?

164

165 ヴァン ん……っ、ちゅう、ちゅ……っ。

166 ちゅる、ちゅうう……♡

167

168 フルター ん、んう……っ!

169 な、なぜ……ん、ちゅう……ちゅ……っ。

170

171 ヴァン ん……っ、ちゅ……っ。

172

173 ヴァン ……それ以上、言わないで。

174 フルターが、フルターのこと否定するようないじ。

175 すっごく、苦しくなるから。

176

177 ヴァン 僕が好きって伝えて、ワルターが苦しくなるなら……。

178 もう言わないから。

179

180 ヴァン だから……触ってよ。

181

182 ワルター ヴァン……。

183

184 ワルター ……わかりました。

185 あなたがたくさん気持ちよくなれるように努めます。

186

187 ヴァン あは、ワルターってほんとに真面目……で……っ。

188 ん、指、はいつて……あ、う……♡

189 わるたあ、の指、好……

190

191 ヴァン うう……ごめんなさい、好きって言うっちゃう……。

192 我慢できな、い……っ♡

193 フェロモンのバカあ……っ、あう……っ♡

194

195 ヴァン いつもだったら、もっとちゃんと我慢できるもん……っ！

196 ワルターの言うことちゃんと聞してる、しい……っ♡

197 あっ♡ あっ♡ 浅いところ、気持ちいい……っ。

198

221

222 フルター
 ……自分で？

223 以前にも、イザナミ式が起動したのですか？

224

225 ヴァン
 ち、違う……っ！

226 人間がみんな……せ、せつくす？

227 したら気持ちよさそうにするし……。

228

229 ヴァン
 僕も練習したら、その……

230 いつか、そういう相手ができたとき、

231 上手にできなくて怒られないかなって思っただけ……。

232

233 フルター
 そう、でしたか。

234 ……私ならどんなあなたでも受け入れます。

235 それに、私もきつと上手ではないでしょうから。

236

237 ヴァン
 そ、んなことな……っ♡ んう……っ。

238 だって、僕……

239 こんなに気持ちよくしてもらってるし……っ。

240

241 ヴァン
 あ、でも……

242

243 フルター
でも……どうしましたか？

244 もしかして、エネルギー残量が……

245

246 ヴァン
ううん、エネルギーはまだ平気……。

247 そうじゃなくて、その……。

248

249 ヴァン
もっと、太いの、欲しいなって……♡

250

251 フルター
ん……いえ、まだほぐれ切っていません。

252 ……指より太いものを入れたことがないなら、ていねいにし

253 なければ。

254

255 フルター
あなたを傷つけないんです

256

257 ヴァン
このくらいヒューマノイドなら平気だって、わかってるくせ
に……。

259

260 ヴァン
もういっちゃいそうだし、おなかの奥ずっとひずひずしてる
から。

261

262 ね、もう入れて……？

263

264

265 トリック3

266

267 ヴァン あ、お……っ、入ってくる……っ！

268 えへ、ワルターの、あっついね……♡

269 ん、ん……っ。

270

271 ワルター っは、ヴァン……、もう少しゆるめられますか？

272 このままでは、痛みが生じる危険が、あります……っ。

273

274 ヴァン ううん……痛くてもへいき、だから……っ！

275 もっと、奥まできて……っ。

276 ワルターのこといっぱいぎゅってしたい……。

277

278 ヴァン ふ、にゅ……っ♡

279 えへ、それに……ワルターがゆっくりしてくれるから、

280 痛くなんかない、し……っ。

281 むしろ、焦らされてるっていうか……っ、ん……っ♡

282

283 ヴァン ね、おねがい、ワルター。

284 奥まで、入れて？

285

286 ワルター ……っ！ 煽ってる自覚はありますね、ヴァン。

287

288 フルター
 ぐっ、締まる……！

289

290 ヴァン
 あは、自覚は、あ、るよ……っ♡ んあ……っ♡

291 だって、ほんとにぎゅってしたいんだもん……っ！

292 ん、ちゅう……ちゅっ……ちう、ちゅうう……♡

293

294 フルター
 ちゅ、ん、ぢう、ちゅ……っ。

295 フルター
 ……ふふ、確かにこうして肌が

296 たくさん触れ合っていると安心しますね。

297

298 ヴァン
 うん……っ♡ は、フルターの髪……っ。

299 首にかかって、ぞくぞくしてしちゃう、かも……！

300 ふ、う……っ、んん……っ♡

301

302 ヴァン
 動きにくい、よね……っ、

303 でもフルターと離れたくなくて……っ。

304 足でぎゅってしちゃう、ごめん……っ。

305 今だけでいいから、許して。

306

307 フルター
 謝ることではありません、ヴァン。

308 ……しかし、不思議ですね。

309 ドキドキするような、落ち着くような……。

310

311 ヴァン ドキドキ、してくれるの？ 僕に……っ。

312 それなら……もっといっぱいぎゅってしよ？

313 ん、ん、ん……っ♡ あう、んん……っ♡

314

315 ヴァン えへ、わかる？ ワルターしか知らない場所……。

316 僕のいちばん、奥、う……っ♡

317 あ、あ……っ♡ ずっと、頭ばちばちする……っ♡

318

319 ワルター ええ、わかります……っ、くっ……。

320 ナカでも、たくさん私を抱きしめてくれている、と。

321

322 ヴァン よかったあ……♡ ふふ、ふふ……。

323 ん、ちゅう、ちゅ……っ、ちう……♡

324

325 ヴァン ワルター、わるたあ……っ、好き、大好き……っ。

326

327 ワルター ちゅ……っ、ちう、ぢう、ちゅっ……。

328

329 ……ヴァン。やはり、私はその気持ちを受け取れません。
330 自分の気持ちがあなと同じだと……自信がないんです。

331 ヴァン ……んーん、いいの。

332 僕の気持ちを否定しないでいてくれたら……

333 それだけでいいの。

334

335 ヴァン 好きでいていいって、

336 それだけで嬉しいから……んう、ちゅ……。

337

338 フルター ちゅ……っ、ヴァン。

339 私は、自分の気持ちもわからないような……

340 そんな体たらくです。

341

342 フルター でも、あなたのことを大切にしたいという気持ちは、

343 本当だと言えます。

344

345 ヴァン た、大切……って、うあ……っ！？

346 ま、待って、身体、おかし……っ♡

347 あ、あ、イっちゃ、うあ……っ♡ あ、あ、あ……っ♡

348

349 ヴァン う、あ……っ♡ ごめんなさい、イっちゃった……。

350 けど、なんで、何も出てないの……？

351

352 ヴァン 気持ちよくなるとき、びゅっって、出るんじゃないの？

353 うう……僕、おかしくなっちゃった？

354 おかしくなっちゃったから、いけない？

355

356 ヴァン やだよお……、いつちゃってごめんなさい、

357 ごめんなさい……っ。

358

359 ワルター ヴァン、落ち着いて。

360 おかしくなってます。

361 これも絶頂反応のひとつです。

362

363 ワルター それに、あなたがいない、なんてことはありません。

364

365 ワルター ……何度でも言います。

366 あなたを、大切にしたいと。

367

368 ヴァン うん……うん。

369 ワルターがそう言うなら、信じる。

370 僕よりも、誰よりも、ワルターのこと、信じたから。

371

372 ヴァン じゃあ、さ……。さっきの気持ちよかったから、

373 もう一回したい……っ。

374

375 ヴァン お腹ぎゅゝってしたら、できるかな……っ♡

376 ふ、ん、あっ……♡ お、ん、んん……っ♡

377

378 ワルター くっ……、そんな射精を促すような……っ。

379

380 ワルター は、は……っ、あなたを気持ちよくしたいのに……っ。

381 すみません、私も限界が近くて……。

382

383 ヴァン いいよ、わるたあ♡

384 えへ、僕が気持ちよくなってナカ、締めたら……

385 ワルターも気持ちいい、でしょ？ だからイキたいのっ。

386

387 ヴァン あ、あ……っ、どうしょ……っ♡

388 また、またイっちゃう……んんっ♡

389

390 ヴァン 僕で、気持ちよくなって……っ♡ わる、ん、ちゅう……♡

391

392 ワルター ちゅ、う……、ちゅっ、ちゅうっ……。

393 大丈夫、気持ちいい、ですから……っ。

394

395 ワルター ヴァン、ヴァン……っ、ちゅう、ちゅ……っ。

396

397 ヴァン ん、ぢう、ちゆる、ちゅうう……♡
398 あ、あぁ♡ ワルターからキス、うれし……♡
399 あ、お、んん……♡ うぁっ♡
400
401 ヴァン わるたぁ♡ わる、たぁ……♡
402 すき、すき、すき……♡
403 僕のナカにいっぱい、びゅっってっ……♡？
404
405 ワルター く……♡ は、あ……♡
406 出します、ヴァン……♡
407 どうか、受け止めて……♡ くっ♡
408
409 ヴァン ん、あっ……♡ 熱いのでっ……♡
410 ふ、んうっっ♡
411 わる、たぁ……♡ あ、あっ、あっ、あっ♡
412
413 ワルター つは、ヴァン……♡ ちゅ、ん……♡ちう……。
414 ちゅ……♡ ヴァン……。
415 大丈夫、ですか……？
416
417 ヴァン ちゅ、ちゅう……♡ うん、大丈夫、だから……。
418

419 ヴァン もっといっぱい、キスしたい……

420

421

422

423

424

425

426

427

428

429

430

431

432

433

434

435

436

437

438

439

440

441 トリック4

442

443 ワルター ちゅ、ぺろ、じゅう……。

444 ……ん、その……あまり見られると恥ずかしい、のですが。

445

446 ヴァン え、えへ……ごめん、ね？

447 でも、僕のを舐めてるって思ったら見ちゃう、かも……。

448

449 ワルター ん……ごく。

450 仕方ありません。

451 今、お互いのエネルギー源が精液しかありませんから。

452

453 ヴァン 正確にいうと、精液つぽいたんぱく質のナニカ、だけど。

454

455 ヴァン ……それでも、なんか嬉しいんだよ。

456 僕が、ワルターの一部になれるって。

457

458 ヴァン ……な、なぐんて！

459 えへへ、ごめん……。重たい、よね……。

460

461 ワルター ……いえ。少しその気持ちは、わかりますから。

462

463 ヴァン ……そうなの？

464 フルターと僕の似てるとこ、見つけられて嬉しいな……。

465

466 フルター
ふふ、そうですね。

467 きつとほかにも、たくさんあります。

468 私と、ヴァンの似ているところは。

469

470

了